

「未来への投資」というなら

市民のくらし、子ども・若者のために

「住んでよし、訪れてよし」のまちづくりを

ムダな大型公共事業は 京都にいらない



市長は「未来への投資」として、リニア・北陸新幹線の誘致、堀川地下バイパストンネル計画(堀川五条～油小路十条)など、莫大な地元負担となるムダな大型公共事業を推進しています。

「未来への投資」というなら、市民のくらし、子ども・若者のためにこそ使われるべきです。

大型公共事業は 身の丈に合ったものに

100億円を超える事業

京都市美術館整備 101億円

中央卸売市場第一市場整備 10年で600億円

京都芸大移転整備 250億円

京都市庁舎整備 350億円

市民の負担を最小限におさえるため、身の丈に合ったものに見直すべきです。

ホテル建設ラッシュ、 違法「民泊」は野放し



住居専用地域における「特例許可」により、昨年末、東山に開業した「フォーシーズンズホテル京都」

京都市の後押しでホテル建設ラッシュが進み、違法「民泊」は事実上野放しに。この状況は「住んでよし、訪れてよし」の観光理念に反するもの。「宿泊施設拡充・誘致方針」は撤回すべきです。

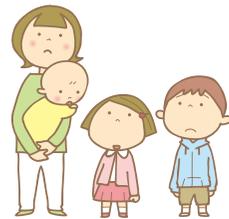
市民の声を聞く、命・くらし優先の市政に

「京都市美術館」の 名前を返してください

京都市は、市民の反対を押し切って京都市美術館のネーミングライツ契約を50年・50億円で締結。市民の財産を勝手に売却するもので、企業の情報発信など京セラの特別扱いは明らかです。

「京プラン」でサービス切り捨て、 民間移管

4月スタートの「子ども若者はぐくみ局」にともなう再編は、医療衛生部門が本庁に集約化されて、違法「民泊」対策や保健衛生機能が弱まりかねないもの。公立保育所の民間移管やDV対策の民間委託に続き、区役所窓口業務の民間委託まで検討しています。自治体の役割はどこに行くのでしょうか。



市民の切実な願いに 背を向ける予算

「子どもの医療費無料化の拡充」「全員制の温かい中学校給食」「高すぎる国保料の引き下げ」「市独自の給付制奨学金制度」などの市民の切実な要求を、京都市は冷たく拒否。

保育所に入れなかった待機児童についても、「大都市で最も保育所に入りやすい都市」と居直っています。

「一日乗車券の値上げ」は許せません

京都市は、市民に広く利用されている「市バス・京都バス一日乗車券(500円)」の値上げを検討中です。市バスは15年連続の黒字です。日本一高い運賃の値下げ、交通不便地域の解消こそすべきです。

「共謀罪法案は白紙撤回を」 共産・民進が共同提案

3月24日の本会議に、共産党議員団と民進党議員団が「共謀罪法案の白紙撤回を求める意見書」を共同提案しました。他党と無所属議員の反対で不採択となりましたが、国民の運動で廃案とするため、全力をつくします。